The Journal of Kansai University of Social Welfare
Vol.*21, 2018.3* pp.83 − 88

報　告

赤穂市スポーツクラブ21の広報活動支援

Supporting system of publicity activities for Sports Club 21 in Ako City

高田　哲史

要約：本稿は，関西福祉大学社会福祉学部の授業：演習・コミュニティアワーⅡにおける兵庫県赤穂市の地域スポーツ推進に関する学生の活動支援についての報告である．本稿の目的は，「赤穂市スポーツクラブ21の育成」を推進するために，学生が自らクラブ運営スタッフの補助的な一員として，赤穂市のスポーツクラブ21の活動支援に参加して得られた成果を検証することであるが，具体的には，広報活動としての「チラシづくり」を，学生とクラブ運営スタッフが協働して行うことにより得られた成果と意味を確かめることである．

取り組みの概要とその成果・意味，今後の課題については以下の通りである．

1．取り組みの概要

前期に，講演やシンポジウムを行い，学生に「赤穂市スポーツクラブ21」の実情を理解してもらい，現地視察，ニュースポーツを体験，その上で討論会を運営スタッフの方々と大学ゼミの時間に行った結果，学生による「赤穂市スポーツクラブ21の広報活動支援」が必要であることが解った．後期は，それに基づいて，赤穂市スポーツクラブ21の運営スタッフ，赤穂市教育委員会とゼミ学生が協働して大学ゼミで「チラシづくり」を行い，その成果と意味を考えた．

2．成果と意味

学生の新鮮な感覚での「チラシづくり」と地区の全戸配布という広報活動形式で，あるスポーツクラブ21のイベントでは，申込者数が今までより50％近く増加した．学生が「赤穂市スポーツクラブ21の育成」に貢献できた．また，この取り組みは，スポーツクラブ21（市民），教育委員会（行政），大学ゼミ（教育現場）が大学ゼミの時間に一同に会して，同じ目的のために協働して取り組む新しく挑戦的な活動支援システム（赤穂方式）で，学生の福祉活動学習，スポーツクラブの運営スタッフ育成の双方に有益である．

3．今後の課題

「スポーツクラブ21育成」のためには運営費の問題が残る．従来の運営形態を打破する斬新な運営費獲得や運営方法が必要になる．また学生が活動支援の立案に参加できる新システムが望まれる．

Key Words：赤穂市スポーツクラブ21，広報活動，学生，チラシづくり，大学と連携

1．研究の背景，目的と方法

赤穂市は，平成27年度に「赤穂市スポーツ推進計画検討委員会」を組織し，12月から3月まで5回にわたって会議を開き，「赤穂市スポーツ推進計画の見直し」を図ってきた．そして平成28年度から平成32年度までの5年間の新たな「赤穂市スポーツ推進計画」を策定した．赤穂市はその中で「多様な参加ができる『する』スポーツの充実を図るために，スポーツクラブ21の育成」を推進計画の一つとして掲げている[1)]．

この推進計画の中で，赤穂市は，地域スポーツ推進の新たな具体的施策として，スポーツクラブ21の「クラブ運営スタッフの確保・育成」をあげ，1年目の平成28年度には，関西福祉大学と連携した人材交流により，「クラブ運営スタッフの確保・育成」を，大学ゼミという場で行う計画を大学側と合意して立案し，シンポジウムや討論会を重ねることで実践してきた．

1年目の平成28年度は，その話し合いの中で出た学生の意見を提言という形でスポーツクラブ21の運営スタッフの方々に提示し，「クラブ運営スタッフの確保・育成」を目指したが，提示した提言は決定的な成果をあげることはできなかった．その理由としては，学生の提言がスポーツクラブ21の現状改革にマッチングしていなかったのと，スポーツクラブ21の現運営スタッフの方々にとって実行しにくい内容とみられたことがあげられる．1年目の取り組みで，いかに学生の提言のみで

2018年2月14日受理
Tetsushi TAKATA
関西福祉大学　社会福祉学部

「クラブ運営スタッフの確保・育成」が難しいかを実感した[2)].

2年目の平成29年度の取り組みは，これらの反省の上に立ち，学生の提言のみでなく，学生が自らクラブ運営スタッフの補助的な一員としてスポーツクラブ21の活動に参加することにより，よりクラブ運営スタッフの資質を上げていくことを，取り組みのはじめに教育委員会・スポーツクラブ21・大学ゼミの三者で確認した.

本研究は，以上の背景に立ち，「スポーツクラブ21の育成」を推進するために，学生が自らクラブ運営スタッフの補助的な一員として，赤穂市の10の小学校区にあるスポーツクラブ21の活動に参加することにより，スポーツクラブ21の「クラブ運営スタッフの確保・育成」を目指し，その成果を確かめることを目的とする.

図1．赤穂市の小学校区分
（『赤穂民報ホームページ』より引用[3)]）

昨年度と学生が異なるため，基本的な研究の方法と手順は1年目のやり方を踏襲したが，反省点を踏まえ，今年度は順番・内容を一部変えて，次のように行った.

⑴　前期のゼミが始まる前に，教育委員会・スポーツクラブ21・大学ゼミの三者で2年目（平成29年度）の取り組みの内容と・順番を確認する.

⑵　赤穂市スポーツクラブ21全体の会長である北川隆雄氏に，スポーツクラブ21を学生に理解してもらうための講義をしてもらう.

⑶　昨年度と同様に，シンポジウムを開催することにより，スポーツクラブ21の運営スタッフの方々に，各クラブの実態や，クラブが抱えている問題点や課題などを学生に理解してもらう.

⑷　ゼミを5班に分け，今年度はそれぞれの班の担当地区を決める.（担当地区を固定化する）

⑸　スポーツクラブ21を実際に視察する．平素行っているニュースポーツをクラブの人たちと一緒に体験する.

⑹　討論会を持つことで，地域スポーツを推進するための議論を，各班の学生と担当地区の運営スタッフで行い，今一番何がスポーツクラブ21に必要か決める.

⑺　一番必要とされている活動を，後期のゼミの時間を利用して，学生と運営スタッフで協働して行う.

⑻　合間にスポーツクラブ21の方々と一緒にニュースポーツを本学で楽しむ.

⑼　活動支援の成果と意味を確かめる.

⑽　今後の課題について確認する.

2．取り組みの概要

⑴　本年度の取り組みについての話し合い

教育委員会･スポーツクラブ21･大学ゼミの三者で，前期授業の前に，2年目（平成29年度）の取り組みの内容と・順番について，3月15日（水）に教育委員会会議室で話し合った．そしてその活動案を，同月に開催された赤穂市スポーツクラブ21全体総会の席で提示し，教育委員会，スポーツクラブ21，大学ゼミが「スポーツクラブ21の育成」を推進する活動を協働して行うことを確認した.

⑵　スポーツクラブ21についての講義

赤穂市スポーツクラブ21全体の会長をされているスポーツクラブ21城西の北川隆雄氏に，ゼミの学生向けに講義をしていただき，「スポーツクラブ21」について学生に学習させた.

⑶　シンポジウムの開催

昨年度と同様に，各地区のスポーツクラブ21の運営スタッフの方々に，大学ゼミの時間に来ていただき，各地区のスポーツクラブ21の現状と問題点や課題について，シンポジウム形式で報告していただいた．出席された方々は次の通りである.（敬称略）

○米口　俊也（赤穂市教育委員会スポーツ推進課）
○北川　隆雄（スポーツクラブ21城西）
○前川　一郎（スポーツクラブ21赤穂）
○井上　一久（スポーツクラブ21塩屋）
○小川いく子（スポーツクラブ21尾崎）

写真１．シンポジウムの様子

○笠木　大海（スポーツクラブ 21 坂越）
○平尾　　龍（スポーツクラブ 21 有年）

(4)　学生の各班の担当地区決め

昨年度，学生の各班の担当地区を 6 回行った討論会のたび変えたことで，一貫した話し合いにならず，意見がまとまらなかったという反省に基づき，今年度は各班の担当地区を固定した．

各班の担当地区は次のとおりである．

1 班…赤穂地区・城西地区
2 班…塩屋地区・赤穂西地区
3 班…尾崎地区・御崎地区
4 班…坂越地区・高雄地区
5 班…有年地区・原地区

(5)　スポーツクラブ 21 の視察とスポーツクラブ 21 とのつどい

昨年度の反省から，討論会をする前に，スポーツクラブ 21 の実情を知るために，市街地区にあるスポーツクラブ 21 城西と，過疎地区にあるスポーツクラブ 21 有年を視察した．また，その後の討論会の間に，親睦を深め，スポーツクラブ 21 の方々とゼミ学生でスポーツクラブ 21 が実際に行っているニュースポーツを体験し，楽しんだ．

(6)　討論会の開催と学生の提言

前期に 4 回の討論会を大学ゼミの時間に，赤穂市教育委員会スポーツ推進課，スポーツクラブ 21 の運営スタッフの方々と共に行った．昨年度と同様に，この討論会の目的は，クラブの運営スタッフと学生が赤穂市の地域スポーツ活性化を推進するために今後の取り組みとして何が必要かを互いに率直に議論することで学生からの提言を引き出すことであった．しかし，今年度は，学生が提言を提案するだけでなく，実際にスポーツクラブ 21 の運営スタッフの補助的スタッフとして協働して提言を実行することを目指した．

討論会から出た意見の主なものをまとめると次の 3 つになった．

○参加者が少ない
○運営費が減っている．
○小学生が少ない．指導できる指導者がいない．

それに対する学生の提言（解決策）は次の通りである．

○宣伝することで人を集める．
○年齢に合うスポーツで参加者を増やす．
○小学生のするスポーツを取り入れる．（サッカー・野球など）
○アンケートで小学生のやりたいスポーツを調べ，その種目の指導者を探す．

この討論会には，赤穂市教育委員会スポーツ推進課

写真２．つどいの様子

写真３．討論会の様子

の米口俊也課長も出席され，貴重なアドバイスを多くいただいた．その中で，米口氏も学生はただ提言するだけでなくスポーツクラブ21の補助的な運営スタッフ（ボランティアスタッフ）として協働して活動することの意義を述べられ，そのことが，スポーツクラブ21の運営スタッフの確保にも繋がるし，運営スタッフの方々の育成にも貢献していると強調された．

4回の討論会で出た意見や解決策は前述のとおりであるが，討論会後に学生一人ひとりがまた個人的な提言を『平成29年度赤穂市スポーツクラブ21への21の提案』という冊子にまとめ，赤穂市教育委員会とスポーツクラブ21に提出した．

⑺　広報活動支援－チラシづくり

討論会で出た意見の中で，クラブへの参加者が少なくなってきているという意見が一番多く，その解決策として「宣伝することで人を集める」という対策案が多く出たことと，学生たちの思いを載せた『平成29年度赤穂市スポーツクラブ21への21の提案』の中でも，地域の人々にチラシを配るという提言が多かったことから，希望する地区には後期のゼミの時間に運営スタッフと学生が協働してスポーツクラブ21のチラシづくりをすることになった．

チラシづくりを希望したスポーツクラブ21は，城西，塩屋，赤穂，坂越，有年，原の6つのクラブであった．そこで，チラシづくりの学生の各班の担当地区を次のように決めて，各地区の運営スタッフの方と協働して各地区に必要なチラシづくりを行った．

1 班…城西地区
2 班…塩屋地区
3 班…赤穂地区
4 班…坂越地区
5 班…有年地区・原地区

写真４．チラシづくり

チラシづくりには，関西福祉大学の演習・コミュニティアワーⅡの時間に，各地区の運営スタッフ，教育委員会の方々に出席してもらい，最初はゼミの教室で構想を，続いてそれを本学のマルチメディア講義室や情報処理・LL教室のパソコンを使って，学生と協働して作成した．

⑻　ニュースポーツを楽しむ

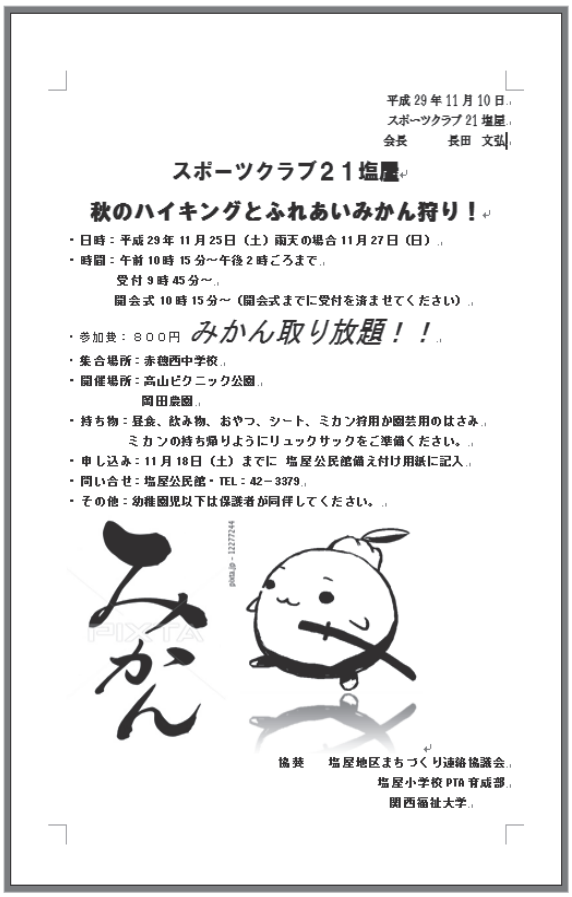
チラシづくりを行う途中に，親睦を兼ねて，ゼミ学生とスポーツクラブ21の運営スタッフの方々がニュースポーツを楽しむ時間をとった．

写真５．ニュースポーツの様子

３．広報活動支援の成果と意味

⑴　広報活動支援の成果

スポーツクラブ21の運営スタッフの方々のほとんどが言われていたことは，同じスタッフが長年運営をしているために，活動がマンネリ化して停滞している，ということである．広報活動一つにしても，今まではイベント情報を回覧板や掲示板，広報誌に載せることが多かったが，今回のように，地区の全戸配布を目的としたチラシづくりはなかなか実行できなかったようである．加えて今回の取り組みは，学生のフレッシュな感覚を取り入れたチラシづくりということで，運営スタッフの方々の期待は大であり，完成したチラシも従来のものとは異なった．どれだけの成果があったか，これからの会員募集やイベント参加者を調べてみないと解らないが，11月25日（土）にスポーツクラブ21塩屋が主催した「秋のハイキングとふれあいみかん狩り！」という行事には，例年の参加申込者数がこれまではずっと70名台であったものが，今年度は105名


平成 29 年 11 月 10 日
スポーツクラブ 21 塩屋
会長　長田 文弘

スポーツクラブ２１塩屋

秋のハイキングとふれあいみかん狩り！

・日時：平成 29 年 11 月 25 日（土）雨天の場合 11 月 27 日（日）
・時間：午前 10 時 15 分～午後 2 時ごろまで
受付 9 時 45 分～
開会式 10 時 15 分～（開会式までに受付を済ませてください）
・参加費：８００円　みかん取り放題！！
・集合場所：赤穂西中学校
・開催場所：高山ピクニック公園
岡田農園
・持ち物：昼食、飲み物、おやつ、シート、ミカン狩用か園芸用のはさみ
ミカンの持ち帰りようにリュックサックをご準備ください。
・申し込み：11 月 18 日（土）までに 塩屋公民館備え付け用紙に記入
・問い合せ：塩屋公民館・TEL：42－3379
・その他：幼稚園児以下は保護者が同伴してください。

協賛　塩屋地区まちづくり連絡協議会
塩屋小学校 PTA 育成部
関西福祉大学

図２．できたチラシのひとつ

の参加申込者数があったという報告もあり，チラシ（図２）の広報活動の成果が出たとみられる．

さらに，スポーツクラブ 21 の運営スタッフにとってもマンネリ化を打破する新しいアイデアを提供し活動する運営スタッフ（補助的ではあるが）の獲得ということで成果があった．

また，学生にとっても，今回のチラシづくりを通じての広報活動支援から得られた成果は大きい．スポーツ福祉コースに学ぶ学生にこの活動で得たことを記述してもらったが，以下のように答えている．

○スポーツクラブ 21 のことがよく分かった．
○ニュースポーツのことがよく知れた．
○地域の方とコミュニケーションがとれた．
○広報活動を通じて地域スポーツを盛り上げた．
○お年寄りのパワーがすごい．
○いろいろな情報を得ることができた．

スポーツクラブ 21 の広報活動支援のみならず学生のスポーツを通しての福祉活動学習にも成果があったといえるであろう．

(2)　広報活動支援の意味

今回のチラシづくりを通じての広報活動支援の成果は前述したとおりであるが，この活動の意味はどこにあるのであろうか．

チラシづくりのような活動を行っている例は全国的にみてもめずらしくない．学生がボランティア活動の一環として，何かものを作り，それを団体に寄贈して喜んでもらう・・・そういった活動はどこでも行われている．しかし，学生とスポーツクラブ 21 の運営スタッフ，さらには赤穂市教育委員会スポーツ推進課という行政までもが，大学ゼミという時間に一同に集まって共に知恵を出し合って，その成果を期待して協力し合い活動をする，このような形態（「赤穂方式」と我々は呼んでいる）は全国的にみても珍しい．

赤穂市のスポーツクラブ 21 については，従来は個々に成果を上げようと努力してきたが，この赤穂方式ではスポーツクラブ 21 の運営スタッフの方々もお互いに会って話をし，相互に活動を共有する場を得ている．地域に生活する複数の異なった集団が協働してある目的に向かって活動する，それこそが今回の広報活動支援の意味であろう．さらに一言加えれば，それを地域の公民館や教育委員会の会議室ではなく，大学ゼミという地域の大学の教室で行っているところに，地域スポーツを活性化する原動力となるものが生まれてくる限りない可能性が秘められていると感じる．

写真６．チラシできた

４．今後の課題

今年度の討論会から出た意見で，運営費が減っていることがどのスポーツクラブ 21 においても共通の悩みであることが解っている．スポーツクラブ 21 は兵庫県が始めた事業で，一つのクラブに兵庫県から当初 1300 万円の運営費が予算づけられたが，近年ではその運営費も

底をつき，どのようにしてクラブの運営費を捻出するかが課題となっている．もちろん，各クラブとも年会費を会員からとっているが，当初兵庫県から支給された運営費に頼っていたため，わずかしか年会費をとっていない．年会費の値上げをすると，会員離れが起こるかもしれないという不安が各クラブともある．平成30年度は，この運営費をどのようにして捻出するかという課題に対して，どのようにして取り組むかを考えていく必要がある．

今年度は，教育委員会・スポーツクラブ21・大学ゼミの三者で話し合い，次年度のスポーツクラブ21活性化推進のおおまかな活動計画を立案したが，学生の意見の中で，活動計画立案自体にもう少し学生が参加できたらという意見があった．スポーツクラブ21活性化を推進するためには，活動をただ支えるだけでなく，活動計画立案の段階から学生の参加ができたらというのである．このことは意外な意見であったが，活動支援をしていくためには大変重要なことであろう．活動支援を真に学生自身の取り組みと感じてもらうためには，ただ言われた通り取り組むのではなく，学生自体も活動計画立案に参加することが本当は大切なのである．

もちろんスポーツ福祉コースに所属する学生にとって，普段は競技スポーツの練習，試合などで忙しく，週1回の大学ゼミと，限られたその他の時間で1年間の活動計画立案に参加することは難しい．教育委員会・スポーツクラブ21・学生の三者が一堂に集まることができるのは，我々が赤穂方式と呼ぶ，大学のゼミの時間だけである．それでもこのことは重要なことなので，学生が活動支援自体だけでなく，活動支援をどのように進めて行くかという計画立案にどう関わっていくかということも研究していかなくてはならない．

（文中の写真使用は関係者の承諾を得ています）

シンポジウム，討論会，聞き取り調査，視察訪問への参加・協力団体

赤穂市教育委員会スポーツ推進課
赤穂市スポーツクラブ21尾崎
赤穂市スポーツクラブ21城西
赤穂市スポーツクラブ21赤穂
赤穂市スポーツクラブ21塩屋
赤穂市スポーツクラブ21原
赤穂市スポーツクラブ21有年
赤穂市スポーツクラブ21坂越

引用・参考資料

1）赤穂市スポーツ推進計画（2016年3月），赤穂市教育委員会，20頁.
2）高田哲史，赤穂市における地域スポーツ推進に関する取り組みについて～「大学ゼミ」・「地域スポーツクラブ」・「教育委員会」の協働方式～，関西福祉大学研究紀要第20巻（2017年3月），関西福祉大学研究委員会，45 － 51頁.
3）赤穂民報HP（www.ako-minpo.jp/）